

僕、担任、授業、「仮説」

「増井君との指切り」

たのしいだけでいいのです。
「仮説」だけでいいのです。

教師失格 丸山秀一

You're my only shining stars!

卒業生たちのクラス会があった。

◎「僕の教師としての評価は、皆さんがどんなふうになっていくかということです。」

卒業文集にそう書いた僕だから、ドキドキしながら出席した。仮説実験授業を覚えていてくれるかしら。

「先生、まだあんな授業をやっているの？」

◎「最近は、あれしかできなくてね。」

「じゃ、また＜七夕飾り＞やってるの?!」

「まわりから反感をかってるんじゃない？」

◎「先生方には、いじめられてばかり。」

「今日は、プリント持ってこなかったの？」

「プリント持ってきて授業して欲しかったな。」

「また受けたいな。」

「この前、テレビで＜魔法の振り子＞やってたでしょ。俺、同僚に自慢しちゃった。」

「あの頃は、＜何でこんなことを＞と思ったこともあったけど。社会に出たら為になること多かったよ。」

「俺も。俺、今でも＜ニワトリ＞だよ。」

嬉しかった。話は、＜ぼくらはニワトリ＞、＜超能力と科学＞、＜洗剤と科学＞、＜七夕飾り＞など授業のことばかり。そして、増井君が言ってくれた。

「先生の授業は、時限爆弾なんだよな。時計のついたダイナマイト。
社会に出てから爆発する・・・。」

また、彼等は、僕のHR担任としてのことも話した。

「先生、最近HRのことはやっていないと言ってたけど・・・。」

- ④ 「うん。みんなが望んでいないものをこちらから押しつけたってしょうがないからね。みんなが2年生のとき、俺、一所懸命やったけどみんなは、迷惑しただけだろう。」

「うん！」

みんなに元気良く肯定されて、僕はちょっとガクッ・・・。

「でもね、先生、先生が、そうやってやってくれたから、俺たちが3年生のとき、俺たちだけでできるようになったんだよ。だから、今の学校でも、俺たちにやってくれたみたいにやってあげて欲しいんだ。」

- ④ 「うーん・・・」

これは難しい注文だった。クラスは、一つの社会である。どんな社会にするのかは、生徒が決めることで、担任が強制することではない。かつては「学級王国」を作った僕だけど、今は、確実にみんなが喜んでくれて、未来が明るくなる「仮説」しかやりたくないんだ。「政治家」にはなりたくない。雑務に追われたり、他の教員からいじめられたり、プライベートな悩みに心砕いている今の僕には、「仮説」ができる全てなんだ。「HR」のことは、僕も生徒もメタメタに傷付いてしまった思い出しかない。

「先生、さっきの自信の話にもあったけど、俺たちに「仮説」をやっ
て俺たちが喜んで、それで、その反応で先生が自信をもったんでしょ。HRでも同じだよ。俺たちが、先生を育てたんだよ。俺たちは先生の「子供」であって、「親」でもあるんだよ。」

- ④ 「うーん、いいこと言うなあ。確かにそうだ。」

「だから、先生、今度のクラスでもやってよ。約束だよ先生。指切りしようよ。」

増井君は、別れるときも、

「約束だよ、先生」と言っていた。それは、僕にとって、とっても辛

いことだったけど、僕は嬉しかった。だって、彼等が、「僕の教師」であつたことが証明されたから。そして、今度会うときは、プリントをもって行って授業したいなと思つたんだ。さようなら、世の中を「仮説実験」で生きる僕の生徒たち。そして、僕の教師たち。

僕が選んだ「馬鹿の一つ覚え」は、仮説実験授業なんだ。

元恵庭北高校 地学教師 3-4担任 丸山秀一 1990.3.24

そして新学期が始まりました。
今年「HR経営」に着手するか…？
ただ「仮説」は やつていれば いい気がするんだけど…

「熱血」のときは、自分のHRの授業は なんか イヤどうもくいま
せんでした。
でも今は 自分のHRの授業が一番 好きです。

…よし！ イイワケ しやあう！ 長いイワケ 少し愛い…

いい想ひ出たけでいい (律法の愛、福音の愛)

「昔も今も、ボクは生活指導がピシッとできません。学校行事も好き
ではありません。クラブ活動も夢中になれません。」

山路敏英『これがフツの授業かな』仮説社

そんな山路さんが自分の子供の「給食指導」だけは、厳しくやるそう
です。

「偏食は許しません。自分の子供だから。」

思えば僕も、大変「好き嫌い」の多い子供でした。「たのしい授業」
4月号に載った、豊田さんの「牛乳なんか飲めなくていいのです」に
は、「そうだ、そのとおりだ」と心から思い、「豊田先生が、僕の先生
だったらなあ」とあらためて思うのでした。(但し、僕は牛乳は大好き
です。念のため。)ダサイオサムが『人間失格』で、「私にとって食事
の時間が一番苦痛でした」と書いているのにも、随分と共感したもので
す。今でも、苦痛だった給食の時間を思い出します。 食 べ る こ と が ま さ

に「苦痛」でした。何とか食べずにすむように、僕は随分と工夫しました。「今日は胃の調子が悪い」と言いわけしてみたり、給食委員と教師の目を盗んで、残したものをバケツにあけたり、どこかに捨てたり、その頃の僕のカバンは、いつも給食の残りでいっぱいでした。「太郎ころぎ」のように、板のふしめの穴から、捨てたりもしていました。しかし、「正義感」に燃える教師に、僕はいつも怒られていたのです。あるとき、僕は、あまりのまずさに戻してしまいました。そして、「もどしてしまったので、残していいですか」と教師に聞きにいきました。「駄目です。全部食べなさい。」そのときの女教師の顔を僕は忘れません。僕は、涙を流しながら、自分のゲロをもう一度食べました。

もちろん、家でも、随分と「好き嫌いをするな」と怒られました。でも、怒られて嫌な思いをした記憶がまるでないのです。これはどうしてでしょうか。

また、あるとき僕は、担任の教師に殴られたことがあります。僕はその時の痛みを忘れることができません。それは、「心の痛み」でした。僕は、その先生が好きでした。教師になろうと思ったのも、その先生のせいがかかなりあったと思っています。でも「痛み」は忘れられません。教師となった僕が生徒のことを殴らないのも、そんな思い出のせいかもしれせん。

僕の父は、大変に恐い人でした。父が怒るだけで、僕は恐ろしくて震えていました。恐怖の余り、家を飛び出していったことも何回もあります。勿論殴られたこともたくさんあります。でも、やっぱり嫌な思い出は、一つも思い出せないのです。

もちろん父にも「正義感」や「教育の使命感」があったと思います。でも、僕は、父が僕のことを「好き」なのを知っていたのです。たくさん優しい思い出や楽しい思い出が輝いて、辛く悲しい思い出が忘れ去られてしまったのでしょう。これは、失恋したときと同じです。ふられても、その人のことが好きならば、その人の優しかった思い出や、楽しかった思い出ばかりが残ってしまって、忘れられないのです。

許すゆゑに存在する、と大切なんです。

Knjのマf々z / I love you just the way you are.
-4-

思い出だけあり、今はたのしく、^{確実に}未来が明るくなる授業と

僕は、テレビの青春ドラマにだまされました。「熱血教師」だった僕に残っている思い出は、辛い思い出ばかりです。僕は、彼等に好かれていると思えなかったのです。

「青春時代が夢なんて後からほのほの思うもの」

森田公一 「青春時代」

たとえ、熱血教師が素晴らしい実績を上げたとしても、それは思い出にしかならないのです。

「卒業して一体何が残るといふのか。思い出のほかに何が残るといふのか。」 尾崎豊 「卒業」

でも、仮説実験授業は「一生」です。素晴らしい思い出、苦しく辛い思い出ではなく、楽しい思い出と共に、確実に「未来が明るくなる」のです。僕は「仮説」を選びます。

今、僕は学級担任であり、学年主任でもあります。山路さんも同じく担任で主任です。そして、僕の学年や学級経営の方針と山路さんの方針が同じなので嬉しいのです。それは・・

「みんな（教師も生徒も）いい気持ちでいられること」といふことなんです。そして、

「最低限、なるべく嫌な思いをしなくてすむように」といふことなんです。学校や教育は、生徒を「駄目」にしているのかもしれない。もちろん、教師も、生徒を「駄目」にしているのです。でも、それを止めることは、僕にはできそうにはありません。だから、最低限、なるべく嫌な思いをしなくてすむようにと考えているのです。もちろん、授業は別です。授業だけは、教師も生徒も、ツッパリも優等生も、いじめっ子も、いじめられっ子も「いい気持ち」になれる「仮説」があるのですから。だから、僕は授業をします。僕は、教師ではありません。僕は授業をする人です。

そんな感じで僕は、平取高校の生徒さんたちと1年間付き合ってきました。1年間、全然「熱血」しませんでした。そして、2年目の付き合いに入りました。卒業生の増井君との約束は果たせそうにありません。たしかに、僕が何か努力すれば何かできそうな気はします。だから、多

くの方は、「熱血」に諦めがつかないんだと思います。「実験」でいいのに。でも、僕のは実験ではありません。「彼等にしてあげられる最大のことは、仮説実験授業をすること。」僕は、たしかにそう思うのです。勿論これも「実験」でしょう。結果は、彼等が卒業してから出るでしょう。彼等のクラス会に僕は招待されるかしら。

今、彼等とくもしも原子がみえたなら>をやっています。どんなに嫌なことがあっても、僕は授業だけやっていれば、楽しいです。そして思うのです。仮説やっていると、ふと思うのです。

「もしかしたら、彼等も僕のこと、

好きになってくれているのかもしれない！」と。

増井くん、ごめんなさい。

やっぱり「ケツをまくって」しまいました。

Here comes the realtime

Realtime to paradise

孤独な闇に負けないで

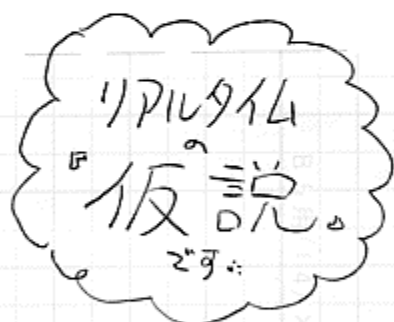
Realtime to paradise

夢に今めぐり逢えるよ

Morning through the dark

偽りに流されないで

Realtime to paradise



この想い君に響けば

Realtime to paradise

愛だけが生まれ変わるよ

Realtime!!

"Realtime To Paradise"

Kiyotaka Sugiyama

To the memory of K

「僕，担任，授業，仮説～ 増井君との指切り」

1990.3

こういうレポートは，恥ずかしくてとても読み返すことのできないものですねー。

丸山 秀一

Kasetsu.maruyama@nifty.com